

# 居安思危 vol.5

平成26年11月10日  
大阪府立大手前高等学校  
保健部 大川香理

居安思危 思則有備 有備無患

安きに居りて危うきを思う 思えばすなわち備えあり 備えあれば患い無し

(出典「春秋」の注釈書「春秋左氏伝」)

紅葉前線が南下し、大阪城の木々も色づき始めました。だんだんと朝夕の冷え込みも強くなり、冬の訪れも間もなくです。

日本には四季があり、その季節ごとに特徴的な気象現象が起こります。これからの季節は空気が乾燥し火事が発生しやすくなります。またインフルエンザや感染性胃腸炎などの感染症が流行したり、黄砂等の影響で大気中のPM2.5の濃度が高くなりやすくなります。手洗い、うがいの励行と共に必要に応じてマスクを準備し、火の取り扱いに気をつけて健康で安全な毎日を過ごせるように心がけましょう。

## ★11月13日(木)5限は防災講演会です★

今年は宮城県気仙沼向洋高等学校の先生にご講演いただきます。(大阪を始めほとんどの都道府県では公立の学校には「大阪府立」などのように都道府県のあとに「立」がつきますが、宮城県では「立」がつかないそうです。気仙沼向洋高等学校も「宮城県立」ではなく「宮城県」気仙沼向洋高等学校となります。)

今回の講演会実施に当たり、夏休みに宮城県気仙沼向洋高等学校を訪問してきました。

大阪から気仙沼までは、伊丹空港から飛行機で仙台まで約1時間15分、仙台から一ノ関まで東北新幹線で約30分、そのあとJR大船渡線(各駅停車ですが駅間がとても長く、現在は一ノ関から気仙沼まで運転再開されています。)で約1時間半かかります。今回初めて気仙沼に行ったのですが、移動だけで半日かかりました。(つまり、それだけの時間をかけて今回の講演に来てくださるということです。)

今回のエピソードをひとつ。一ノ関駅で下車したところ、新幹線に遅れが出ており、「大船渡線に乗り換えの方はお急ぎください!!」と駅員さんが連呼していました。次の電車でもいいか…と普通に歩いていたら、駅員さんが「乗り換えですか?お荷物お持ちしますので急いでください!」と慌ててやってきました。よくわからないまま、駅員さんについて走っていき(荷物はちゃんと自分で持ちましたよ!)乗車したのですが、電車に乗ってから車内に貼ってあった時刻表を見て、あらびっくり!2時間~3時間に1本しかない電車だったので。一緒に行った先生方と、駅員さんがあんなに慌てていた訳がわかったね…と、いまさらながら感謝しました。



JR 気仙沼線 大谷海岸駅近く

ポケモンの被災地支援活動  
駅ではピカチュウが  
お出迎えてくれます!



初めて訪れた気仙沼、空と海の青と木々の緑が美しく、風光明媚な所なのですが、町のあちこちでかさ上げ工事をしていたり、仮設住宅があったりして、震災の爪跡がまだまだ残っていました。

# 宮城県気仙沼向洋高等学校はこんな学校です



気仙沼向洋高校 仮校舎

宮城県気仙沼向洋高等学校は今年創立 113 周年を迎える歴史と伝統のある専門高校です。現在は情報海洋科・産業経済科・機械技術科の3つの専門学科を有する高等学校ですが、元々水産を専門にした学校であったので、海岸線近くに学校がありました。

平成 23 年 3 月の東日本大震災では地震発生時 200 人近い生徒が学校に残っていましたが、教職員の的確な判断と引率の下、全員無事に避難しました。

今回お話し下さる気仙沼向洋高校の片岡先生はそのときに生徒を引率して避難させ、その後避難所の運営にも関わられた先生です。

私が気仙沼向洋高校で聴かせていただいたお話の中で印象に残っていることは、普段からの「備え」の大切さ、特に「意識の備え」の大切さです。

学校が海に隣接していたので、教職員だけでなく、生徒たちの危機意識も普段から高かったそうです。この危機意識の高さがすばやい避難へとつながり、自分たちの命を守ることに繋がっていったとのことでした。

今回の講演では片岡先生の体験を交えながら、お話し下さいます。高校生として、これからの社会を担うものとして災害時の対応についてぜひ積極的に学んでもらいたいと思います。



気仙沼向洋高校 被災校舎

## 気仙沼って知っていますか？

気仙沼市は宮城県の最北端、北上山地の東南部に位置し、リアス海岸や大島、鳴き砂など自然に恵まれた観光名所が数多くあります。

サンマ、カツオ、サメなど日本有数の水揚げを誇る気仙沼港は震災でたくさんの漁船が流されてしまいましたが、現在は全国から漁船が寄付され、漁業の復興が進められています。中華料理の高級食材として有名な「ふかひれ」はここ気仙沼のものが最高級品だそうですよ。



気仙沼市観光キャラクター

「海の子 ホヤぼーや」

気仙沼の名産のホヤの頭、サンマの太刀、ホタテのベルトをしています。



活気溢れる漁港の様子



↑ホヤぼーやの頭のホヤ海のピナップルと言われています。